

## 令和4年度学校評価報告書

令和5年3月13日

北海道教育委員会教育長 様

北海道伊達緑丘高等学校長 保 格 秀 規

次のとおり令和3年度の学校評価について報告します。

## 1 本年度の重点目標

- (1) 主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、学習習慣の確立を通して確かな学力の育成に努める。  
 (2) 基本的な倫理観や規範意識を身に付けさせるとともに、豊かな心や創造性の涵養に努める。  
 (3) 心身の調和的な発達を図るとともに、困難に立ち向かう自信と勇気のある態度の育成に努める。  
 (4) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、自ら進んで課題を解決しようとする態度の育成に努める。

## 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営 情報発信 働き方改革	閉校を迎える年であり、また引き続きのコロナ禍ではあったが、計画どおりの学校運営ができた。働き方改革については、時間外45時間以下であった。	情報発信については、保護者や地域からも一定の評価をされた。閉校業務に向けた取組では、多くのボランティア活動が生徒の糧になったと思う。
改善方策	業務内容の精選を図りつつ、伊達緑丘高等学校のレガシーの発信により、生徒の意識改革を図り、更なる学習活動の活性化につなげることができる。	
教育課程 学習指導	コロナの影響はあったが、行事等の工夫で教育課程は、ほぼ計画通り実施できた。同窓生や地域とのつながりを活かすことができ、充実した活動を展開することができた。	「総合的な探究の時間」の取組み内容はユニークであり、社会で通用する力につながっている。取組の工夫を重ねた継続により、生徒の進路実現に結びついている。
改善方策	ICTを積極的に活用し、授業改善を進め、学校教育全体を通して生徒に身につけさせたい力の育成に努める。学び方や職員研修の更なる充実により、学力向上、生徒のキャリア形成に資する教育課程を推進する。	
教育相談 保健安全 いじめ対応	感染症対策や学校行事の変化等により、コミュニケーションに不安を感じる生徒が増加傾向にある。担任・学年団や養護教諭の対応のほか、SC、SSWなど外部の人材を活用して個に応じたきめ細やかな対応ができた。	マスクを外せない社会で、各家庭での教え方も様々なので難しいが、悩む生徒1人1人に対応した早期対応と、きめ細やかな努力が求められることを理解した。
改善方策	終わらない感染拡大を機に、人間関係に悩む生徒や不登校となる生徒は着実に増加しており、本校でも更なる対応が求められてきた。日常的な観察、家庭や外部機関との連携を深め、生徒の、自己肯定感の向上を図るとともに、事故の未然防止につながる円滑なコミュニケーション能力の育成が図られるよう教育活動を充実させる必要がある。	
公表方法	学校Webページ P T A だより 学校評議委員会	

- 3 添付資料
- ・令和4年度自己評価票・学校関係者評価票
  - ・令和4年度学校評価集計（職員と保護者・生徒）